

都道府県の学習（自分の県以外）・超入門—授業計画の考え方と準備—行ってみたい県「沖縄県」を例として—

稲城市立稲城第五中学校 後田 博

1 はじめに

自ら考え、自ら学ぶ学習を通して「生きる力」を育むことをめざした新学習指導要領の中で、もっとも大きく変わった項目の一つが、地理的分野の「(2) 地域の規模に応じた調査」ではないでしょうか。この「地域の規模に応じた調査」は「地域の特徴をとらえる視点や方法」を具体例を通して習得することをめざした「学び方」を学ぶ項目です。

その中でも「都道府県」の学習は従前の七地方区分の学習から大きく変化したために、授業方法で戸惑っている先生方も多いことと思います。

「学び方」を重視した都道府県の学習をどう考え展開していくか、私の授業計画を紹介します。

2 教師の腕の見せ所 都道府県の学習

「規模に応じた調査活動」は「学び方」が主役になる学習です。「学び方」が主役になるには、「生徒」が主役になる授業を展開する必要があります。

もちろん「生徒」が主役になる授業は、多くの時数を必要としますが、「学び方」を学ぶことが、もっとも効率のよい授業といえます。しかし、教師が調査活動を生徒まかせにするだけでは、「学び方」を学ぶ授業にはなりません。

どのような「学び方」をどの県でどのように展開するのが教師の腕の見せ所になります。

3 地域を地誌的にとらえる学び方

都道府県にかぎらず地域をとらえる方法には、静態的地誌と動態的地誌の二つがあります。

静態的地誌：地域をさまざまな視点から捉え、総合的に地域の特徴を明らかにする。
(自分の都道府県で)

動態的地誌：地域を形成する中核的な要因を中心に地域特性を捉え、地域の特徴を明らかにする。(自分以外の都道府県で)

静態的地誌は、自然・農業・工業の特徴というように、取り上げた都道府県の特徴を項目ごとに追究し、まとめて、多面的に明らかにする方法です。この方法は、今まで教科書がとりあげていた七地方区分などで活用されていました。都道府県の学習では、自分の県の学習において、身近な地域の調査で習得した「学び方」を生かして、この方法で調査活動を展開するのがよいと思います。

自然の特徴・農業の特徴・工業の特徴といった書物や資料・データは、都道府県ごとに比較的簡単に入手できます。学び方の入門には、最適といえるでしょう。

さて、自分の県を静態的地誌のアプローチでうまく調査することができたら、動態的地誌のアプローチで自分の県以外の県を調査する方法にチャレンジしてみたいかがでしょうか。

4 動態的地誌の学び方

動態的地誌の具体的なアプローチの仕方について考えてみましょう。

動態的地誌は、都道府県を特徴づける地理的事象に着目し、「そうしたものが、なぜ、この県でみられるのか」という視点で、因果関係を追究します。

入り口は一つですが、追究していく過程で他の要素と次々に関連づけられて、結果として地域の特徴を多面的にとらえることとなります。

つまり、端的に言えば「どのような地域の特徴があるのか」という視点で追究して地域の特徴を明らかにするのが静態的地誌であり、「そうした地域の特徴がみられるのはなぜか」という視点で地域の特徴を明らかにしていくのが動態的地誌だといえるでしょう。

静態的地誌の学習方法を学ばせるには、どの都道府県でも比較的容易にできますが、動態的地誌のアプローチの仕方を学ばせたいとなると、慎重に教材を研究する必要があります。

つまり、動態的地誌のアプローチの「学び方」

では、取り上げる地域を特色づける地理的事象を手がかりに、他の事象、特色を関連づけるかたちで追究活動の学習が展開されますので、まずは地域を特色づける地理的事象が把握しやすく、多くの生徒がそれを中心に追究したくなるような視点で都道府県を選択しなければなりません。

5 行ってみたい県 「沖縄県」を例に

私が勤務している学校は、東京都にあります。「46道府県の中で一番行ってみたい県とその理由」をアンケート調査したところ、沖縄県が圧倒的に1位でした。(沖縄出身の芸能人の影響も)

東京都の中学生にとって沖縄県の「美しい海」は、小学生時代からテレビなどの影響により情報としてすでにもっているからでしょう。



この行ってみたい県「沖縄県」を教材としてとりあげれば、生徒は意欲的に学習に取り組むことが予想されます。しかし、問題はこの「沖縄県」を動態的地誌のアプローチの仕方です。学べるのか検討しなければなりません。

(1) 教師の学び方の観点からの検討

まず、沖縄県の全国1位のもの何かを調査したのが下の表です。

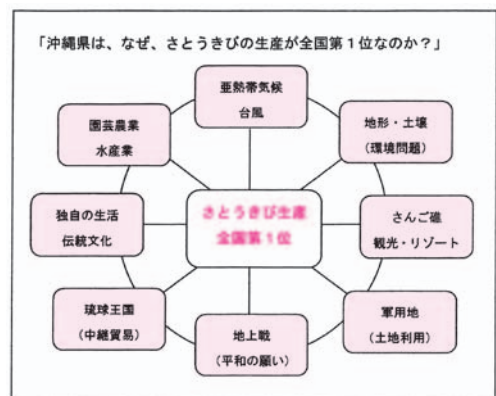
項目	全国	沖縄	調査年
人口増加率(%)	0.17	0.84	1999
出生率(%)	0.94	1.28	1999
平均寿命(女)	83.22	85.08	1995
にがうり(t)	10,127	6,380	1999
さとうきび(t)	1,571,000	959,000	2000
パイナップル(t)	12,650	12,650	1999
洋ラン(千本)	30,700	6,920	1999
粗糖(億円)	481	282	1998

帝国書院『県学習用 沖縄県を調べよう』より
動態的地誌で扱う場合は、取り上げた都道府県

を特色づけるものをみいだすことがまず必要になってきますので、全国的な視野からみてある程度特色がはっきりする必要があります。この表からわかるように、沖縄県は、全国1位のものが多数あり、核として追究すべきテーマもあることがわかります。

そこで、「沖縄県は、なぜ、さとうきびの生産が第1位なのか」というテーマを核として設定し、次に、どのように調査学習が発展するか授業構想の計画を考えます。

- ①さとうきびの育つ環境を調査する学習から沖縄特有の亜熱帯の気候(台風)・地形・土壌の学習へ
- ②亜熱帯の学習から亜熱帯の農業と沖縄の位置(大陸に近い)の学習へ
- ③沖縄の位置の学習から他地域や他国との結びつきの学習へ
- ④他国の結びつきから交通網の発達の学習へ
- ⑤さとうきび畑の位置の学習から沖縄の土地利用の学習へ
- ⑥土地利用の学習から軍用地の学習へ
- ⑦軍用地の学習から沖縄の歴史と環境問題(赤土流出とリゾート開発)の学習へ
- ⑧沖縄の歴史から琉球王国の学習へ
- ⑨他国とのむすびつきや琉球王国の学習から沖縄独自の伝統文化と伝統産業の学習へ
- ⑩①～⑨までの学習から沖縄の課題と今後の予想の学習へ



このように「沖縄県は、なぜ、さとうきびの生産が第1位なのか」というテーマから、さまざまな地理的事象や要因が密接に関係していることを学べることが予想できます。これが動態的地誌のアプローチの「学び方」の方法です。

(2) 調査資料入手法の検討

次に、都道府県規模の学習（間接体験地域）になると、身近な地域の学習（直接体験地域）のように直接歩いて調べる方法は無理です。地図や統計、インターネットなどの資料・情報を活用します。

教師は、沖縄県の学習をすすめるにあたって、中学生が活用できる資料や資料入手の手立てをあらかじめ調べておく必要があります。

①インターネットで調べる

沖縄県庁のホームページにアクセスしたら、「沖縄子どもランド」という小中学生に向けて沖縄の位置、歴史、産業、伝統、文化をまとめたホームページを見つけました。これは使えそうです。

②地図帳で調べる

帝国書院『中学校社会科地図(最新版)』(以下、地図帳) p.53~54に沖縄に関する位置や土地利用の資料があります。

③電話、FAXで資料を請求する

自分で資料を電話やFAXで入手する方法も生徒に身につけさせたい技能の一つです。

電話のかけ方、FAXでの問い合わせの方法などもきちんと指導する必要があります。

地域によっては、「児童・生徒からの問い合わせ件数が多く（社会科や総合的な学習の時間の調べ学習）、その対応に追われている」ということも、役所の方から聞いています。

生徒にまかせっきりにしないで事前に役所の方に、「資料が入手できるか」「学習のために生徒が問い合わせをする」ことの確認とお願いしておくこともたいせつです。

④県学習「沖縄県を調べよう」(帝国書院)

帝国書院では、県学習用の書籍（現在全32県）を発刊しています。これは、その都道府県に住んでいる中学生が学ぶための資料ですので、基本的に静態的地誌のアプローチで書いてあるようです。他の都道府県の生徒にも、教師が「学び方」の方法を工夫すれば、十分活用できる資料です。

特に裏表紙の県の統計資料は、動態的地誌のア



帝国書院『県学習用 沖縄県を調べよう』より

プローチを考える資料として役に立ちます。

⑤教師自ら情報を入手する

この方法は簡単にはできませんが、旅行のときなどに、教師自らが資料を入手する方法です。その際、ぜひ、現地の中学校の社会科の先生に連絡をとり、現地ではどのような資料で自分の県の学習をしているのか情報を提供してもらいましょう。

実は私もこの夏休みに、沖縄県へ行ったときに資料収集（恩納村立仲泊中学校・恩納村役場）をしました。事前にアポイントをとり、社会科の先生や教育委員会の方から地元ならではの貴重な資料や教材を多数いただくことができました。



6 おわりに

まだ始まったばかりの新教育課程の地理学習は、戸惑うことばかりです。こんなときこそ、それぞれの都道府県の先生方が「都道府県」学習の授業実践・アイデアを情報交換して、その内容を高めていく必要があります。生徒にとって学びがいがあり、教師にとって教えがいのある教材、学習法を一緒に考えていければと強く願っています。

沖縄子どもランド (<http://www.pref.okinawa.jp/kodomo/>)
恩納村役場 (<http://www.vill.onna.okinawa.jp/>)